



# 質す！ この一問！ ～神林茂 議会質問の中から～

今年の4月から始まる1年間の予算を中心に審議する、平成20年度第一回定例会。神林茂議員の25項目に及ぶ質問をこの紙面で全て報告することは不可能です。そこで今回は、各項目の中からこの一問を、しかも要約して掲載させていただきました。



質問に立つ神林茂都議



## ―元氣な高齢者の力をボランティア活動に

東京都としては、広域的な情報提供や財政支援はもとより、技術や知識を習得するための研修会の開催や講師派遣、資格認定制度の確立、ボランティア活動をサポートする保険制度等、区市町村と協力して、ボランティア活動が地域社会の中で活動しやすい受け皿づくりを行っていくべきであります。そこで、今後とも地域社会を活性化させるためのボランティア活動の推進、殊に元氣な高齢者の力の活用策について、東京都の考え方と具体的な取り組みを伺います。

## ―答 弁

平成二十年度に新たな検討会を設置し、ボランティア活動の核となる人材の育成、ボランティアに参加する側と必要とする側のマッチング等、団塊の世代や元氣な高齢者の力を地域社会の中で積極的に活用するための仕組みづくり等について検討してまいります。

## ―空港周辺住民の思いをこめて

私は、空港周辺住民の思いや要望を、空港が整備され良くなっていくのと一緒に、空港と共生させて周辺地域全体も整備し良くしていくことによって結実させていくべきだと考えております。そして、空港跡地利用計画を検討する今が、まさにその千載一遇のチャンスなのであります。そこで、東京都としても、今まで申し上げてきた空港周辺住民の思いや要望を、しっかりと受け止め、実際の計画の中に反映させていくべきと考えますが、所見を伺います。

## ―答 弁

航空機騒音の低減化については、都として、国に対し、引き続き強く働きかけてまいります。また、地域の意見を参考に検討をすすめ、羽田空港跡地利用基本計画をとりまとめまいります。

## ―中小企業のための自主製品開発・販売支援策を

中小企業が、いわゆる下請企業としての受注強化を図ることのほか、企業体質自体を下請的な性格から脱却して、自ら製品の企画・開発やマーケティングを行っていくことも、厳しい現状を切り切るための活路の一つだと思えます。しかし、従来下請企業であった企業が、自主製品開発・販売を行っていくには、それなりの資金やノウハウが必要になると思えます。こうした企業に対して、どのような支援策を実施していくのか、所見を伺います。

## ―答 弁

中小企業の商品開発については、「新製品・新技術開発助成事業」により、実用化の見込みのある新製品や新技術の研究開発に要する経費の一部を助成しています。平成二十年度からは、単独で製品開発に取り

組む場合の助成金の上限額を1000万円から1500万円に引き上げ、拡充を図ります。また、今まで製品開発を行った経験がない中小企業に対して、製品開発プロセスを学ぶ「実践ものづくり中核人材育成事業」を、中小企業振興公社城南支社で実施、自社オリジナル製品の開発・事業化を遂行できる企業内人材を育成します。

## ―新銀行東京の杜撰な運営に憤りを感じる。都民と中小企業に責任をもてる対応を！

追加出資、事業清算、破綻処理の三つの選択肢について、それぞれが選択された場合、都民や都内中小企業に与える影響が具体的にどのようなものか、お示しいただきたい。新銀行の杜撰な運営に憤りを感じざるを得ませんが、今一番大切なことは、原因をしっかりと究明し、間違いない再建策を実現して、新銀行の行く末を模索し、東京から金融不安の火種を払拭することです。

## ―答 弁

追加出資については、新たな負担を都民に求めることとなるが、中小企業に継続して支援することが可能となります。事業清算の場合には、預金払出しの集中に備えて、1000億円の貸付金を都が支援する必要があり、更に既存融資先の経営悪化により、1000億円の損失額が推定されます。破綻処理の場合には、預金処理にペイオフが発動され、また、融資先にとつては事業継続が困難となり、東京から金融不安を引き起こすこととなります。

